

音響実験活動レポート

工学部機械・システム工学科 2 年

19211163 蒔山玲於

19211180 松波旭

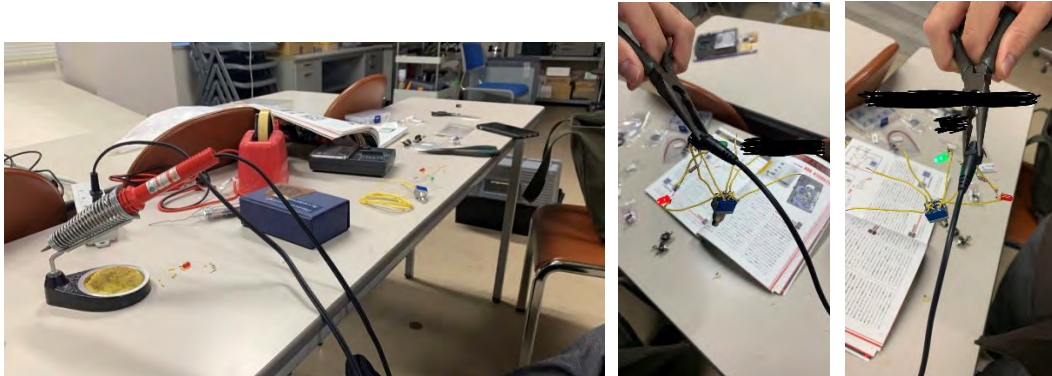
活動の規模が大きく、活動がまだ途中であるため、現時点での活動について述べる。

1. 活動のきっかけ

私たちは音楽に興味があり、自分たちで作った音で音楽を楽しみたいと思ったので参加した。私自身が軽音サークルに所属しており、実際使っていきたいと思ったので、製作しようと思った。

2. 活動内容

エフェクターの基礎である AB ボックスを作成した。AB ボックスは直接音質を改良するものではないが、音の出力を切り替える重要な物である。スイッチの基盤に購入した各部品をハンダ付けし、実際に電源をつないで、切り替えができるかどうか確認した。次は実験時の写真である。



3. 今後の方針

今後は、音に直接影響を与えるようなエフェクターを作成し、音の波形を観察するなどして実験の記録をする。記録は、本学の研究室である鞍谷研の院生の皆様に協力いただき、行う。

4. 現段階の感想

パーツを選ぶ際、廃盤になった部品などが多数存在し、それらと同等の部品を見つける必要があった。その際、パーツに対する専門的な知識を要求されるので、難しさを感じたが、そのぶん、自身の成長も感じる事ができた。

パーツを組み立てる際は、パーツの性質を理解していないと繋げるときに向きを間違えたり、接続する端子を間違えたり、うまくいかなくなってしまうので、大変だった。